

JABA 心～尊重する力を育み、主体的な行動力を培う～

実践場所	静岡県	浜松学院中学校	実践者	中澤 純一
対象	中学1・2年生		時間数	7時間
担当教科	社会科		実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ バングラデシュの風土や環境、社会的制度、生活習慣など日本との違いと肯定的に出会う。 ・ 貧困な状態にあっても人間の尊厳を守り、貧困から脱出するために努力している人々がいることを認識し、私達がどのような行動をすることができるのか開発・支援の立場から考える。 			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	バングラデシュってどんな国!? 【異文化理解】 ねらい 世界には多様な文化があることを知り、それぞれの文化にはその土地の風土や気候、環境や産業、歴史や宗教等が深く関係していることを知る。 プログラム ① バングラデシュの位置確認 ② バングラ BINGO ③ 数字で JABA		1回 ①バングラ BINGO のクイズ内容は、国旗、食事、民族衣装、乗り物、教育、建物など。 ②数字で JABA では、数字上で日本(先進国)、バングラデシュ(開発途上国)、韓国(新興国)の違いを知ることに関心をあてた。
	2	貧困について考えよう!! 【貧困】 ねらい 貧困の状況や原因は連鎖的に結びつき、悪循環を生み出していることに気付く。さらに、個人の努力だけでは、悪循環から抜け出すことが難しいことを知る。		2・3回 ②1秒の世界は、ダイヤモンド社『1秒の世界』を参考にした。 ③世界を変えるお金の使い方は、ダイヤモンド社『世界を変えるお金の使い方』を参考にした。
	3	プログラム ① 貧困 KJ 法 ② 1秒の世界 ③ めぐりめぐる貧困の輪 ④ 世界を変えるお金の使い方		
	4	バングラデシュの子どもたち!! 【教育問題】 ねらい 途上国における同年代の子ども達はどのような生活を送っているのか、特にバングラデシュの教育システムはどのようになっているのか知り、今、私達に何ができるのか考える。		4・5回 ③バングラデシュの小学校の教科書を解くでは、現地で購入したものを元に、英語科教員と連携して実際に解かせた。
	5	プログラム ① 切り抜きフォトランゲージ～ストリートチルドレンとは～ ② バングラデシュの子ども達～ミヌさんのある日～ ③ バングラデシュの小学校の教科書を解く(英語) ④ バングラデシュの小学生からの贈り物		
	6	バングラデシュの子どもたちとつながろう!! 【国際交流】 ねらい 切り絵の作成を通し、日本の文化をバングラデシュの小学生伝える。完成した作品をバングラデシュの SIZUE MODEL JUNIOR HIGH SCHOOL に送ることでバングラデシュとの繋がりを感ずる。		7回 模造紙サイズの厚紙を12等分にし、グループごとに各パーツを製作。葛飾北斎の『富嶽三十六景 凱風快晴』を作った。
	7	プログラム ① みんなで切り絵で富士山をつくろう		
成果	授業を始める前は、バングラデシュという国を初めて聞いた生徒や地図上にどこに位置するのか分からない生徒が多かった。しかし、実践授業を通してバングラデシュに強い興味関心を示し、『(距離は)遠くても(心は)近い国』という意識が芽生えた。今後も、バングラデシュに関する授業実践を進めていきたい。			
課題	バングラデシュを採り上げる中で、どこに焦点をあて、ねらいを絞るか苦慮した。限られた時間数の中で、プログラムの進行を潤滑に行い多くの情報を生徒に伝えるために、オリジナルのアクティビティを開発したり、既存のアクティビティに改良を加えるなどした。			
備考	1～5回のアクティビティを公益財団法人浜松国際交流協会、JICA 中部、はままつ国際理解教育ネット共催による教員や一般を対象にした『国際理解教育ファシリテーター養成リレー講座』(合計4時間)や浜松市内における小学生を対象にした公民館講座『国際理解講座』(全3回)(合計8時間)でも実践した。			

JABA 心 - 尊重する力を育み、主体的な行動力を培う -

中澤 純一（浜松学院中学校）

1 はじめに

浜松市において、様々な民族・文化を背景とする外国籍を有する人々は約 26000 人を超える。特に、静岡県では南米からの就労を目的とした外国籍の方々が増加しており、地域の経済活性化には大きな担い手となっている。今後も、日本における今日的課題である少子高齢化が大きな要因となり、外国籍の方々の人口は増加されると予想される。未来の社会を担う中学生が住む地域を見つめる上でも、国際理解教育は学校教育の中でもとても重要な学習活動である。

今日までの社会の動向を眺めると、性別、人種、国といった固定的な枠組みが、人々の価値観や考え方、行動を方向づけるものだと考えられてきた。しかし、グローバル社会を迎えた昨今、各国の文化は越境し、双方の国々の中で溶け込み融合さえしている。この世界の現状の中、文化の持つ概念は大きく様変わりしてきている。そして、私達の価値観や考え方、生活習慣がグローバルな視点で多様化してきた。だからこそ、学校教育における国際理解教育の重要性が増してきている。

そこで、本実践ではバングラデシュを一例に中学生を対象とした国際理解教育プログラムを教材開発し、実践を試みた。特にプログラムを構成する上で、異文化理解、貧困、教育問題、国際交流をテーマに絞った。本実践報告を通し、学校教育や社会教育における国際理解教育の発展に微力ながら寄与できれば幸いである。

2 実践の概要

1) 授業タイトル JABA 心 - 尊重する力を育み、主体的な行動力を培う -

授業タイトルを検討する際、本校の生徒が日本（Japan）とバングラデシュ（Bangladesh）の架け橋となり将来的に活躍することを願い、『JABA』とつけた。一方、『心』には、生徒自身が本実践を通し、自分と他者を尊重する力を育み、今後も急速に進むことが予想されるグローバル社会を生きていく中で主体的な行動力を培って欲しいという期待が込められている。

2) 対象 浜松学院中学校 1年生（30名）、2年生（14名）

3) 実践教科 総合的な学習の時間（7時間）

4) ねらい

- ・ バングラデシュの風土や環境、社会的制度、生活習慣など日本との違いと肯定的に出会う。
- ・ 貧困な状態にあっても人間の尊厳を守り、貧困から脱出するために努力している人々がいることを認識し、私達がどのような行動をすることができるのか開発・支援の立場から考える。

3 実践内容

1 時限目

タイトル バングラデシュってどんな国！？【異文化理解】

ねらい

世界には多様な文化があることを知り、それぞれの文化にはその土地の風土や気候、環境や産業、歴史や宗教等が深く関係していることを知る。

展開

バングラデシュの位置確認

中学校社会科の地理分野において、バングラデシュについて取りあげている単元は極めて少ない。そのため、地図上においてバングラデシュの位置を認識している生徒が少ないので、位置を確認した。

バングラ BINGO

バングラデシュを知る教材である。クイズの内容は、国旗、食事、民族衣装、乗り物、教育、建物などを挙げた。また、中学生以外にも小学生から一般まで幅広く使えるように配慮した。以下に、クイズの一例（資料1）とBINGO表（資料2）を記載する。

資料1 クイズの一例（実践パワーポイントより）

Q1. バングラデシュの国旗はどれだ？

A B C

Q1. 正解はB。

Aの国旗はパラオ

【解答】正解はBの国旗。Aはパラオ、Cは日本。バングラデシュの国旗の意味は、緑はイスラム教を表し、赤丸は国が栄えるよう「地平線から昇る太陽」を表しているものと、緑はイスラム教の神聖な色で農業を、赤は独立の時に流された血を表しているというものがある。

Q3. バングラデシュの主食は何でしょう？

A チキン
B 米
C パン

Q3. 正解はBで米

【解答】正解はBの米。日本もバングラデシュも主食は米である。しかし、種類が違う。日本の米は丸みがありふっくらとしている。食べてみるとねばりけがあり、よく噛むとあまい味がする。しかし、バングラデシュの米は細長く全体的にうすい感じがする。食べてみるとパサパサしていて、あまり味がしない。ベンガル人は、この米にカレーをまぜて食べる。

数字で JABA

日本（先進国）、バングラデシュ（開発途上国）をデータ比較する教材である。また、新興国として韓国（新興国）も付け加え3カ国を比較することにした。また、先進国、開発途上国、新興国の経済格差を知る手がかりにもなるよう配慮した。

（資料3）

資料3 数字で JABA 表

	バングラデシュ	日本	韓国
人口	1億 4660 万人 (2009年)	1億 2728 万人 (2008年)	4800 万人 (2008年)
面積	14万 km ²	38万 km ²	10万 km ²
平均寿命	63.5 歳	83 歳	80 歳
成人の総識字率	48%	100%	97.9%
世界遺産の数	3	16	10
人口1万人当たりの医師	3人	21人	16人

資料2 BINGO 表

B I N G O

【高文化理解】

バングラデシュ2011 BINGO !!

01. [国名] .. A 左手 B フォークとスプーン C 右手	02. [食事] .. A 左手 B フォークとスプーン C 右手	03. [乗具] .. A チン B 米 C パン
04. [教育] .. A サリー B ヶロワカミス C ルンギ	05. [乗り物] .. A B C	06. [年齢] .. A 小学5年生まで B 小学6年生まで C 小学7年生まで
07. [建物] .. A 壊している B 修理している C 建てている	08. [トピック] .. A 運転が下手 B 車間距離が短い C 流行している	09. [トピック] .. A チューインガム B ジュートバック C タビオカジュース

2・3時限目

タイトル 貧困について考えよう！！【貧困】

ねらい

貧困の状況や原因は連鎖的に結びつき、悪循環を生み出していることに気付く。さらに、個人の努力だけでは、悪循環から抜け出すことが難しいことを知る。

展開

貧困 KJ 法

貧困とは貧しいということだけでなく、そこから関連する様々な状況があることに気づくため KJ 法を行った。様々な困難は複雑に繋がっており、困難な生活から抜け出すことは難しいことを知る事ができた。（写真1・2・3）

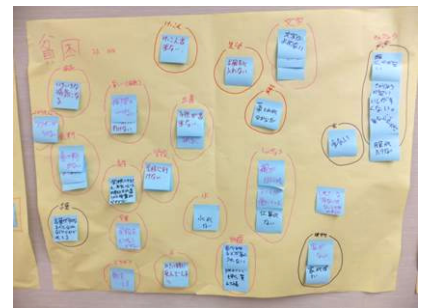
（写真1）



（写真2）



（写真3）



1秒の世界

資料から世界の現状を読み解く。ただ、資料を黙読するだけでなく手法を工夫することによって、情報を共有し、理解が深まることをねらいとした。教材作成にあたり、「山本良一 『1秒の世界』 ダイアモンド社 2003年」を参考にした。1グループ5・6人で構成されているため、6つのシートを作り、1人1分ずつ1シートを読む時間をとり、読めたら右隣の人へという形でリレー読みを取り入れた。

（資料4）

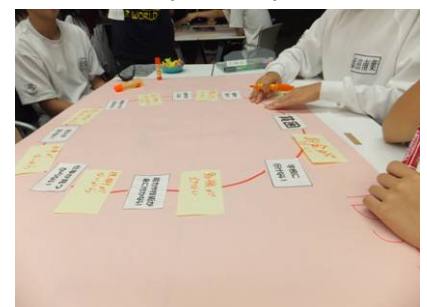
資料4 『1秒の世界』配布シートの一部

<p>1秒間に</p> <p>体育館32棟分、39万m³の二酸化炭素が排出されています。</p> <p>石炭や石油などの化石燃料を大量に使うことによって、1秒で762トン、39万m³の二酸化炭素が排出されている。1950年に比べ4倍以上の排出量で、このうち384トンが吸収されずに蓄積され続け、大気中の二酸化炭素濃度が上昇している。そして、このことが、地球温暖化の最大の原因になっている。</p> <p>森の樹木が二酸化炭素を吸収し、酸素に変えることはよく知られている。しかし、杉の木5万本でも、1秒で吸収できる二酸化炭素は0.01m³程度に過ぎない。</p> <p>産業革命以降、大気中に新たに蓄積されたCO₂をどのように削減すべきか</p>
--

めぐりめぐる貧困の輪

既存の「貧困の輪」を用いて、貧困の状況や原因は連鎖的に結びつき、悪循環を生み出していることに気付くことをねらいとした。模造紙の上部に「貧困」と書かれた付箋を置き、そのカードを起点に残りの付箋7枚（栄養が十分に取れない、栄養不良になる、学校に行けない、能力や技術が身に付かない、仕事が見つからない、収入が足りない、健康を損なう）がどのような順番で繋がるのか円状に並べた。さらに、既存の方法を改良し、付箋と付箋が繋がっている部分にその因果関係を書いた付

（写真4）



箋を新たに貼るようにした。（写真4）

世界を変えるお金の使い方

の貧困の輪において、多くのグループで「お金がないから、栄養不良になる」、「仕事が見つからないから、お金がない」、「お金がないから、子ども達が学校に通うことができない」など、低収入が因果関係で挙げられた。そこで、「山本良一『世界を変えるお金の使い方』ダイヤモンド社 2004年」を参考にし、6つのシートを作成した。（資料5）手順は と同様である。

資料5 『世界を変えるお金の使い方』配布シートの一部

<p>1兆2000億円で</p> <p>教育の機会を与えられていない</p> <p>世界中の子供たち全員が初等教育を受けられます。</p>
<p>6歳になれば小学校へ入学する。日本では当たり前のことですが、世界には小学校年齢に達しながらも、学校に通うことができない子どもが1億人以上います。『危険口の文字を読めず命を落とす子ども。HIV感染を避けるすべを知らない子ども。教育を受けていない女性の子どもの5歳まで生き延びる確率は、受けた女性の子どもの半分以下という統計もあります。教育が貧困脱却の足がかりになるのは言うまでもありません。そこで、毎年一度、オックスファムなど世界中のNGOが協力して『世界中の子どもに教育を！』をスローガンにした世界規模のキャンペーンが行われています。何より大切なことは、一人ひとりが世界の現状を知ること。そして得た情報を発信していくことです。教育の大切さをあなたから誰かへ伝えてください。</p>

4・5時限目

タイトル バングラデシュの子どもたち！！【教育問題】

ねらい

開発途上国における同年代の子ども達はどのような生活を送っているのか、特にバングラデシュの教育システムはどのようになっているのか知り、今、私達に何ができるのか考える。

展開

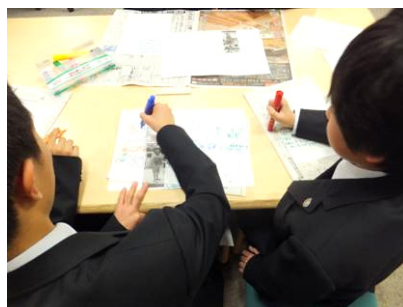
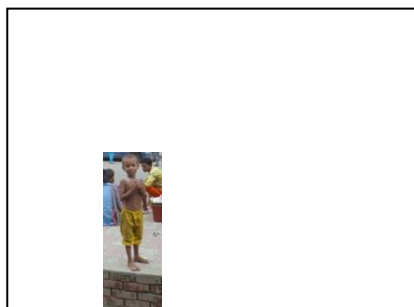
切り抜きフォトランゲージ～ストリートチルドレンとは～

切り抜きフォトランゲージ（資料6）を通して、写真に写る子どもは何をやっているのか生徒に連想させ、空白の部分に絵を描かせた。（写真5）アクティビティ終了後、実際の写真を見せ、ストリートチルドレンの説明（資料7）を加えた。

資料6 切り抜きフォトランゲージ

（写真5）

資料7 ストリートチルドレンの説明



<p>ストリートチルドレン</p> <p>路上で働いているか、あるいは路上を住処としていて、家族や社会から適切に保護されていない子ども（18歳未満）</p> <p>① 路上にいる子ども → 家族とのつながりがあり、働いている子どもが多く、ある程度家族に依存している。 ② 路上で暮らす子ども → 家族の支配から脱している。 ③ 捨て子</p> <p>【仕事の種類】 ・乞食 ・くず拾い ・車見張り、洗車 ・荷物運び ・物売り（新聞売り、花売りなど） ・靴磨きなど</p>
--


バングラデシュの子ども達～ミヌさんのある日～

開発途上国の子ども達の生活を知ること、生徒自身の生活を見直し、さらには日本とバングラデシュとの繋がりを感じるための教材である。はじめにバングラデシュで小学校に通うミヌ・ムッサト・タルビアさんのプロフィールシートを配布し、ミヌさんの背景を掴む。（資料8）次に、分配円にミヌさんの1日の生活を予想しながら、グループで話し合い分配円を完成させる。（資料9）（写真6・7）教材作成にあたり、クロスロード2009年12月号（JICA）を参考にした。


資料8 ミヌさんのプロフィール

【バングラデシュ】

ミヌ・ムサト・タルビアさん（10歳）小学5年生



- 今、一緒に住んでいる人は？・・・両親と兄（4人家族）
- 好きな授業は？・・・図工（理由：きれいな絵を描くことができるから）
- 嫌いな授業は？・・・算数（理由：難しいし、頭を使うから）
- よくする遊びは？・・・カナマテ（目かくしおにごっこ）、バドミントン
- 将来、なりたいものは？・・・パイロット（理由：空を飛んでみたいから）
- 尊敬する人は？
 - ・・・父（理由：算数の先生だから。算数はとても難しい教科で、それを教えられる父はすごい）
- 日本について知っていることは？
 - ・・・国旗がバングラデシュと似ている、バングラデシュと仲がよい、日本人は髪の毛がきれい

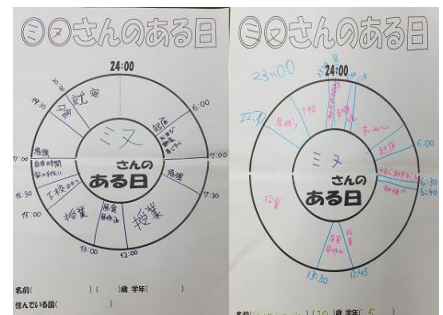
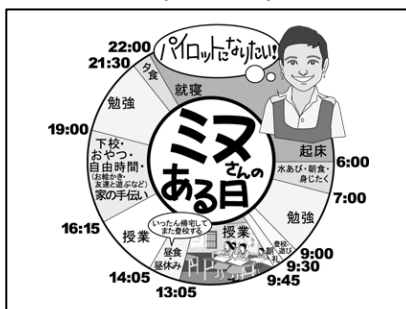


起床 水あび・朝食・身じたく 勉強 授業 昼食・昼休み 授業 下校・おやつ
自由時間・家の手伝い 勉強 夕食 就寝

（資料9）

（写真6）

（写真7）



バングラデシュの小学校の教科書を解く（社会）

バングラデシュの小学校で使用されている社会の国定教科書を実際に解くことで、現地ではどのような教育がなされているのか知ることをねらいとした。小学校1年生の教科書を使用した。英語が準公用語ということもあり、小学校低学年から高水準なことを学んでいることに生徒は興味関心を示していた。なお、グループで教科書の長文を読み、問いを解くように参加型で行った。また、小学校の算数、英語、理科、ベンガル語の教科書も展示した。ベンガル語の教科書以外は全て英語で書かれているので、生徒自身もある程度、どのようなことが書かれているのか理解することができた。

バングラデシュの小学生からの贈り物

現地の小学生がイメージするバングラデシュを知りたいとした教材である。あらかじめ筆者は事前に、本実践授業の事前レクチャーとして、本校の生徒に日本をイメージする絵を描いてもらった。そして、筆者が現地の小学生に模擬授業をし、バングラデシュをイメージする絵を現地の小学生に描いてもらい、絵の交換をしてきた。これらの絵から、4種類選びそれぞれ4分割し、グループで協力しながら推測して、それぞれの絵を並べ完成させるアクティビティを行った。（資料10・11）（写真8）

（資料10）バングラデシュの児童が描いた絵

（資料11）点線部分で切り4分割した

（写真8）



6・7時限目

タイトル バングラデシュの子どもたちとつながろう！！【国際交流】

ねらい

日本の伝統工芸の一つである切り絵の作成を通し、日本の文化をバングラデシュの小学生に伝える。完成した作品をバングラデシュの SIZUE MODEL JUNIOR HIGH SCHOOL に送ることでバングラデシュとの繋がりを感じる。

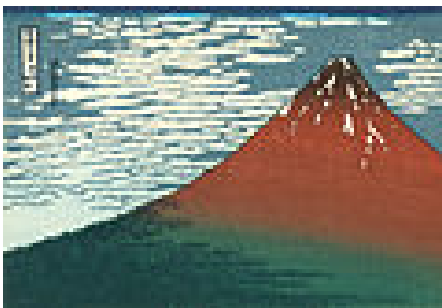
展開

東日本大震災においてバングラデシュの生徒たちが被災した人々に励ましの手紙を寄せた事実を知り、本校の生徒から自発的に手紙のお礼として何かできることはないかという声を持ち上がった。そこで、日本伝統工芸の一つである切り絵（資料 12）（写真 9・10）を作成し、英語の手紙と共に送った。

（資料 12）モデルにした『富嶽三十六景 凱風快晴』

（写真 9）

（写真 10）



4 考察 - 生徒のふりかえりシートから

生徒の意見を眺めると、講座を重ねるごとに、気づきの変化や行動変容がみられた。1時限目の講座では、「バングラデシュのことを全然知らなくて、自分でも驚いた。」「世界には色々な人がいることが分かった。」など、バングラデシュを通して異文化理解を深め、ねらいを一定の水準で達成することができた。2・3時限目の講座では、「1人1人がよく考えることで、貧困解決のたくさんの方法がみつかる。」「開発途上国の国々に自分も何か支援をしたい。」などといった、悪循環を繰り返す貧困の輪から途上国が抜け出すために、生徒自身が何ができるのか考えることができた点はねらい以上のものがあった。4・5時限目の講座では、「普通に暮らせている子どももいれば、貧しい子どももいることが分かった。」「ストリートチルドレンと小学校に通う子どもの両方を見て、改めて貧富の差が激しいことを知った。」など、生徒たちと同年代の子ども達の生活を眺めることで、貧困がもたらす教育の格差を知り、改めて教育の大切さを実感することができた。6・7時限目では、「東日本大震災において日本に励ましの手紙を書いてくれた子ども達にお礼をしたい」と生徒が自ら切り絵の作成を提案し実行した。

本実践を始める前は、バングラデシュという国を初めて聞いた生徒や地図上にどこに位置するのか分からない生徒が多かった。しかし、実践を通してバングラデシュに強い興味関心を示し、『(距離は)遠くても(心は)近い国』という意識が芽生えた。さらに、本実践が生徒の気づきを促し、心を動かし、行動変容を導いたと確信している。今後も、バングラデシュに関する授業実践を進めていきたい。

5 参考文献

- (1) 独立行政法人国際協力機構中部国際センター 『地球から教室へ 開発教育・国際理解教育虎の巻～人が育ち、社会が育つ～』、東信堂、2006年8月
- (2) Sonamoni A Dreamland for Children's Books 『Social Studies And Bangladesh』
- (3) 独立行政法人国際協力機構(JICA) 『クロスロード 2009年12月号』 2009年12月